

平成26年度高知女子大学看護学会公開講座報告

「やってみてわかる！ 分析方法」

平成26年の公開講座は、平成25年度に引き続き「やってみてわかる！ 分析方法」（高知県立大学共催）をテーマに、平成26年8月30日（土）に「データの質的な分析」、平成26年9月20日（土）に「データの量的な分析」を高知県立大学池キャンパスにて開催いたしました。

第1回「データの質的な分析：データの収集と質的な分析」は、講師 田井雅子先生（高知県立大学看護学部准教授）で開催し、参加者は54名で、愛媛県や香川県など県外からの参加者もおりました。質的研究の方法論や研究テーマの検討、データ収集と分析方法についての講義の後、研究テーマの一例として『退院に向けた患者の家族への看護援助』を仮定し、インタビューの逐語録データのコード化、カテゴリー化をグループワークしながら、データ分析の演習をおこないました。参加者の方々からは、「初めて質的研究の講義を受講し大変勉強になりました」、「グループワークが楽しかった。研究への興味が出てきた」、「実践があり、わかりやすかったです。グループワークではファシリテーターの方が入って下さり学びが深まった」と感想をいただきました。

第2回「データの質的な分析：結果の意味と解釈」は、講師 池添志乃先生（高知県立大学看護学部教授）で開催し、36名の参加者でした。質的研究におけるデータ分析の特徴や、分析から見えてきた現象のラベルづけの手順、カテゴリーの関係の考え方の講義の後、カテゴリーの内容とそれぞれの関係を明らかにし、研究結果のまとめをグループワークしながらおこないました。第1回から継続して参加された方々がほとんどであり、多くの方々に質的な研究の一連のプロセスについて理解を深めていただける機会となりました。参加者の方々からは、「グループワークすることで考えがまとまり、他の人の意見を聞くことで解釈や分析が深まった」、「答えは一つではない。いろんな方向からの見方が大切と言うことがわかりました」、「ちょうどインタビューが終わったところなので早速来週からコード化、ラベルづけしてみたいと思います」など感想をいただきました。

第3回「データの量的な分析：入力シートが左右する研究の方向性」は、講師 久保田聡美先生（高知県立大学DNGL特任准教授）で開催し、51名の参加者でした。目的に応じた研究デザインや仮説の構築、分析方法、質問紙を作成する際の留意点、研究結果に影響するバイアスなどを具体的に説明いただきました。参加者の方々からは、「母集団と標本の関係やバイアスについて改めて確認でき、研究計画に反映できる」、「陥りやすい現象についてなどよくわかりました。テーマを一般化するためには母集団を明確にしていくための、文献検討が必要だと思いました」、「基本的な考え方、注意すべきポイントがわかった。」という意見や感想をいただきました。

第4回「データの量的な分析：グラフだけでよめる統計法」は、講師 井上正隆先生（高知県立大学看護学部助教）で開催し、参加者は34名でした。先生には統計方法の選び方、統計分析の読み方について、分かりやすくご講義いただきました。演習では、論文の表やグラフから検定の方法を学ぶことができ、参加者の方々からは、「グラフの読み方をおして、回帰分析、分散分析の基礎が理解できた。検定について分かったので良かった」、「検定の種類と読み取り方が理解でき、論文の効率的な読み方も理解できた。ガイドシートが分かりやすく今後の参考になる」、「楽しく参加することができました。実際の分析方法について演習をまじえて教えていただき、とても理解しやすかったです。」と好評をいただきました。今後も皆様の研究活動にお役に立つことのできる講座を開催していきたいと思っております。

昨年度に寄せられた講座時間の延長のご意見を参考に、質的な分析、量的な分析を各回3時間とし、演習時にはグループにサポーターを配置するなどしましたが、時間が足りないとの意見もありました。看護研究に関する学習ニーズは高く、次年度も皆様方の要望にお応えできるよう、演習を交えた企画を検討したいと考えております。